

久高オデッセイ

大重潤一郎監督作品
会三部北海道初上映

地下水脈からにじみ出てくるような歌声であった
祭りは途絶えているが 祭りの命は息づいている
12年間待っていた鳥の姿を確認した
(大重潤一郎)

伝承と表現としての映像 —大重潤一郎監督作品を通して—

ゲスト：鎌田東二氏 (京都大学名誉教授)
高橋慈正氏 (曹洞宗僧侶)
主催：北海道大学文化人類学研究室

と き：2023年10月16日(月) 10:30～19:30
と ころ：北海道大学 学術交流会館 小講堂
入場無料・申込不要

伝承と表現としての映像 —大重潤一郎監督作品を通して—

— 趣旨 —

沖繩・久高島はイザイホーをはじめとする伝統的な祭祀で知られ、琉球島の島々の中でも重要な位置づけを占めてきました。しかし近年では人口流出などによって、将来世代への伝承が課題となっています。この催しでは、フィールドで経験される世界をいかに表現するのかという問いを、大重潤一郎監督(1946-2015)の4作品の上映を通して考えます。

大重監督は、自然と霊性と人間の深いつながりを久高島に見出して、映画「久高オデッセイ」三部作として表現しました。また久高島に旅立つ「文化の古層」をモノクローム写真として表現した比嘉康雄(1938-2000)の最後のインタビューを「原郷ニライカナイへー比嘉康雄の魂」として作品化しています。これら4作品の上映と、大重監督との親交が深い鎌田東二氏、高橋慈正氏のお話を織り交ぜながら「伝承と表現としての映像」を議論します。

— 大重潤一郎監督 —

1946年鹿児島県生まれ。岩波映画の助監督を経て、劇映画「黒神」でデビュー。1995年の阪神淡路大震災との遭遇から、自然に対する畏敬の念が益々深まり、「光りの島」「風の島」など自然の中における人間の位置を、常に自然の側から問いかける作品を制作。写真家・比嘉康雄の遺言の撮影「原郷ニライカナイへー比嘉康雄の魂」を機に、神の島と呼ばれている久高島を舞台に2002年より「久高オデッセイ」三部作を制作、2015年完成。同年7月22日享年69歳で永眠。

— ゲストプロフィール —

鎌田東二氏

京都大学名誉教授。宗教哲学。1998年に大重潤一郎監督と出会い、共に同年8月8日「神戸からの祈り〜満月祭コンサート」(神戸メリケンパーク)と10月10日「東京おひらき祭り」(鎌倉大仏・高徳院)を実施。以来、盟友として活動を共にし「久高オデッセイ」三部作を完成。

高橋慈正(あい)氏

曹洞宗僧侶。2002年3月に大重潤一郎監督と出会い、当時在学中だった多摩美術大学にて大重映画全作品上映会を行う。また、2011年よりNPO法人東京自由大学にて連続上映会を行い、現在はオンラインで上映会を継続している。「久高オデッセイ」第二部・第三部 演出助手。

— プログラム —

と き 2023年10月16日(月) 10:30～19:30 (開場 10:15)

と ころ 北海道大学 学術交流会館 小講堂 **入場 無料** **申込 不要**

主 催 北海道大学 文化人類学研究室

朝の部 ▶ 「原郷ニライカナイへー比嘉康雄の魂」上映

10:30-11:00 イントロとレクチャー(小田 博志、鎌田 東二)
11:00-12:00 「原郷ニライカナイへー比嘉康雄の魂」(2000年, 60分)

昼の部 ▶ 「久高オデッセイ」全三部上映

13:00-13:30 レクチャー(鎌田 東二)
13:30-14:35 「久高オデッセイ 第一部 結章」(2006年, 65分)
14:35-14:50 休憩
14:50-16:06 「久高オデッセイ 第二部 生章」(2009年, 76分)
16:06-16:20 休憩
16:20-17:55 「久高オデッセイ 第三部 風章」(2015年, 95分)



久高オデッセイ
三部作ダイジェスト

夜の部 ▶ トークセッション

18:15-18:30 お話(高橋 慈正)
18:30-18:45 久高島インターン経験談(学生)
18:45-19:30 鼎談(鎌田 東二、高橋 慈正、学生)と質疑応答(司会・小田 博志)

北海道大学 学術交流会館
JR札幌駅から徒歩約7分
札幌市営地下鉄南北線さっぽろ駅から徒歩約8分
北海道大学正門に入って左側



会場アクセス

【お問い合わせ】
北海道大学大学院文学研究院
文化人類学研究室 小田 博志
Mail:oda@let.hokudai.ac.jp